
私がなぜ現在の科目を選んだか

「スポーツ医科学」

信州大学大学院医学系研究科スポーツ医科学講座

内田 晃 司

2014年信州大学卒業, 08Mの内田晃司と申します。現在信州大学スポーツ医科学講座で博士課程大学院生として, 26年目の学生生活を送っています。

私は公務員を経て医学部に入学した, いわゆる「再受験組」です。公務員時代, ルーチンの仕事を繰り返す日々が続く, 前に進めない苦しみを感じていました。いったい自分は何のために存在するのだろうか, 自分の本当にやりたいことは何か, 前に進み続けられる職業は何かと考え, 研究という結論に行き着きました。

すぐに大学院入学も考えましたが, 以前の職で関連

のあった脳の虚血や体循環に興味があり, 体系的な勉強がしたいと思ったこと, また医師免許取得後はアルバイトで生計を立てながら大学院で学べることを知り, 医師を目指しました。

現在, スポーツ医科学講座の能勢教授のもと, 運動が高齢者に及ぼす様々な影響について研究しています。マクロの生理学分野だからかもしれませんが, 物質の特定などエンドポイントが明確な研究ではなく, 自分が見ている現象, 取得したデータから新たなモデルを生み出す, 非常に創造的な作業を求められ, その難しさを実感する日々です。

年齢も高く, 今後基礎研究をどこまで続けられるかは分かりませんが, 今現在自分がやりたいことを仕事として出来る幸せをかみしめながら日々を送っています。
(信大平26年卒)

私がなぜ現在の科目を選んだか

「衛生学公衆衛生学」

信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室

水 木 将

衛生学公衆衛生学とは, 世界大百科事典によれば, 衛生学は個々人の健康と疾病の予防を目的に, 公衆衛生は社会的なひろがりのなかで, その地域住民の疾病の予防と健康の維持を目的とするところにある。この定義の中に, まさしく私がこの分野を選んだ理由が示されている。それは予防, 並びに健康の維持に携わることである。

私が医師を志した理由の一つに, 子供の頃, 父が病に倒れたことがある。その病気の原因は喫煙(父は重度のヘビースモーカー)であった。今でこそ喫煙の害は誰でも知っているが, 当時は現在に比べて喫煙による健康被害の概念が進んでいない時代であった。思えば, この過去が現在の進路に影響を与えたと思う。その後, 6年生時のユニット講義「社会医学・医用管理」が大きな転機となった。以前の講義では理解でき

なかった社会医学の重要性が, 臨床実習で各科を学んだ後に受けると間近で感じられた。「病気なんて発症しないなら, その方が良くに決まっている。そのためにはどうしたら良いか」と考えていた疑問に感ずることもあったと思う。以後, 私の関心は社会医学を主として進むことになった。

卒業後, 研修医として働き始めてもこの関心は持続していたが, その一方で, 臨床医にも興味ひかれた。困っている患者さんの所に行き, 治療し, 段々と良くなり, 退院する。この過程が面白くないはずがない。さらに退院する際に患者さんからの感謝の言葉は何より勇気づけられた。どの科も興味深く, やっぱり臨床医で診療をやろうかと本気で悩んだ。しかし, やはり社会医学の興味は消えなかったもので, 興味あるところに飛び込んでやろうと, 社会医学の道に進む決心をした。

社会医学はその性質から表立って効果は見えにくく, また当たり前として享受されるべきだと私は考えている。感謝され, 光り輝く様な存在ではないかもしれない。しかし, 社会医学が自分の選んだ道として間違っていなかったといえる様に, これからも精進していきたい。
(信大平25年卒)